

平成20年度 森プロ事業実績：たにぐみ山づくりプロジェクト

(平成21年3月末現在)

		H19年度	H20年度				5カ年
		実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		130.5	338.1	118	35%		595
作業道(m)		610	1,710	1,350	79%	緊急管理路	7,810
間伐等	面積(ha)	26.5	40.3	62	155%	利用+切捨	196
	材積(m3)	291.5	1,350.0	1,141	85%		7,871(11,449)
備考		(11,449)は、組合全体の計画量					

H20年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)(見込み)

1,195 円/m3

施業集約化の状況

- 県(AG)・町・組合が連携して、手紙→電話→地域座談会により、長期施業受託を締結
- 境界立会→測量→施業提案→現地説明会を行い施業集約化を実施。
- 様々な形で施業集約化ができた。
 - ・小規模所有の森林についても集約化に取り組む事が出来た。
 - ・事業地の隣接地で同意がとれるなど、集約化の広がりもみられた。

施業プランの活用状況

- 22箇所作成済み、施業提案に活用中。

・間伐コスト分析シートと施業プランを比較した結果、車輦系のシステムはコスト分析シートより、見積もり(プラン)の方が高めに、架線系のシステムは、その逆になった。→今後すりあわせ。

施業プランナーの養成状況

- ステップアップ研修参加 3名。施業プランナー2名育成
- ・担当者レベルでスキルアップはしたが、組織の体制が施業プランナーの研修内容を活かせる体制でない。

作業道の状況

- ・急勾配の事業地での作業路開設を実施。(昨年は比較的平坦地が中心)地山勾配が緩いところでは、作業性を考慮して、広く開設し、作業ポイントとして利用した。
- ・比較的延長の長い作業路(952m)を開設。
- ・車輦系の作業システムを実施できる路網を配置。
- ・土質が悪い現地は、土を入れ替えて対応。
- ・豪雨後に昨年の開設路線を調査し、崩壊が無いことを確認。
- ・S字カーブやスイッチバックの開設を試みた。
- ・狭い幅員で施工することで、比較的容易に山へ進入できるが、作業ポイントが必要。
- ・ハーベスタによる支障木伐採で効率的に開設した路線有り。



幅員0.25で開設

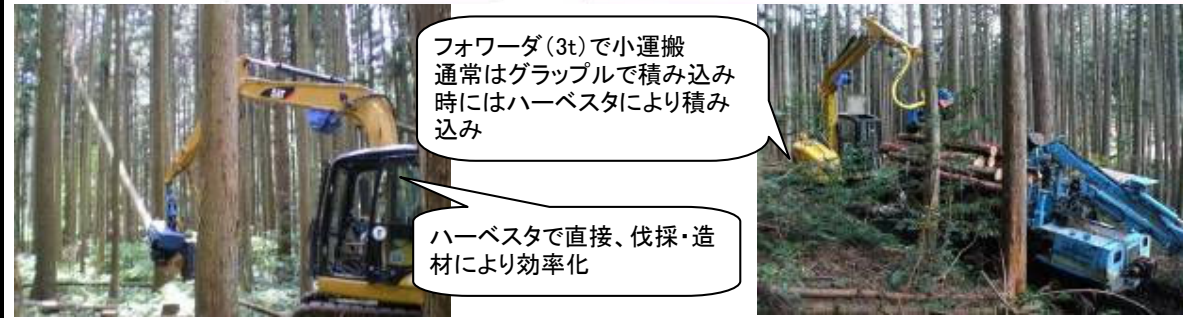
有島東洞線、0.25ハーベスタで支障木伐採



クズレ線完成

作業システムの状況

- ・平成20年度 素材生産性 H19年度 2.4m³/人日 H20年度 3.0m³/人日
- ・積卸し用のグラブを導入したことにより、作業システムが完成し、生産性がアップした。
- ・ハーベスタによる林内侵入・直接伐採・造材により効率はアップしたが、林地保護も検討が必要。



その他

- ・集約化現地説明会(2008.7.13)
- ・農林委員会現地視察(2008.7.22)
- ・間伐コスト分析シートver.2を題材に研修会を開催(20.7.29)
- ・作業路開設検討会(2008.8.18、11.13)
- ・10月と1月にかかり木等の安全講習会を森プロ事業地で実施
- ・地元林業関係者を対象に森プロに理解を求める説明会・研修会を実施(2009.2.24、2.26)
- ・フォワーダ生産性調査、林産事業現地検討会実施(2009.2.25)

森プロの成果

- ・育林型事業体から、育林・林産型事業体へ実践の場が出来た。
- ・地域を集中して集約化し、ノウハウを蓄積する事が出来た。
- ・作業路の必要性を再認識し、開設延長をのびした。
- ・高性能林業機械を活用した作業システム確立に取り組み、生産性が向上した。(車輛系システム)
- ・森プロを通じて、地域に期待感がわいてきた。山に対する興味がもどった。
- ・森プロを通じて森林組合と県(AG)が協力関係が強くなった。

今後の課題

- ①事業の効率的な推進と波及
 - ・組合内の体制づくり(迅速な方針決定と取り組みの波及効果)
 - ・集約化作業の人員確保(集約化作業に手間が掛かる。)→集約化の先行により効率的な計画
 - ・事業の進捗管理の徹底(問題が発生した時のみ少数による打ち合わせ→定例会議の開催)
- ②事業地・事業量の確保
 - ・利用間伐地の確保(高齢級林)
 - ・基幹作業道の開設(造林作業道等の計画・開設) ・町との連携
 - ・地域の森林所有者の作業路開設への理解促進
 - ・小径木等の販路拡大、搬出量の拡大
- ③ビジョンの明確化による事業の標準化→各種基準作成
 - ＜計画・管理＞
 - ・長期施業ビジョン、利用間伐適用、作業路開設方針、作業システム適用、補助金の適用(集約化作業、施業提案の効率化、責任の明確化、作業指示の明確化等への対応)
 - ＜現地・技術＞
 - ・林産作業標準、作業路開設マニュアル、選木基準(選木技術の向上、雪害を考慮した間伐、残存木の傷を減少させる等への対応)